課題解決型高度医療人材養成プログラム
選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント

［取組２］看護師・薬剤師等のメディカルスタッフを対象とした人材養成
（１）地域での暮らしや看取りまで見据えた看護が提供できる看護師の養成

整理番号	１７

申請担当大学名（連携大学名）	鹿児島大学
事業名	地域での暮らしを最期まで支える人材養成
事業責任者	医学部長　佐野 輝

事業の概要

本事業の特徴は、「離島・へき地をフィールドとした教育」により地域ケアを担う人材を効率的体系的に養成するものである。鹿児島県の離島・へき地は超高齢化、地域で支える人材や医療資源の不足など日本が直面する医療・介護問題を抱えている。一方、合計特殊出生率は高く、地域互助システムが機能している。また、地域住民は独自で多様な文化（価値観、生活様式等）を発展・保持している。つまり、本県の離島・へき地は地域ケアに必要な能力育成に非常に適したフィールドであり、生命の誕生から看取りまでを住み慣れた地域で支えることのできる人材育成を目指すことができる。

本事業には学部生を対象とし新卒３年までに、地域ケアの基礎的能力の修得を目指した「卒前・卒後一貫教育コース」と、臨床経験３年以上の看護師を対象とし、地域での看取りまで見据えた看護が提供でき、看護職者の教育指導ができる人材育成を目指した「卒後アドバンスコース」がある。

推進委員会からの主なコメント　　○：優れた点等、●：充実を要する点等

○へき地医療を支える人材育成に焦点化しており、課題が明確である。
○「離島・地域ナース育成センター」は国の地理的特徴を考慮した発案で、事業内容に書かれている機能が発揮されれば、学部教育・病院医療・地域保健・在宅医療の連携が促進されると評価できる。
○実施体制のリストから、離島における講義・演習・実習で十分な協力体制が整っていると評価できる。
○へき地・離島の看護師は医療資源が少ない中で卓越した健康管理やアセスメントの能力等が必要であり、事業効果が期待できる。
●卒前・卒後一貫コースのキャリアパスが不明確である。
●離島地域など、物理的に離れたところとの共同事業であり、実績が不明確であるため、共同を推進するための具体策が提示されることが望ましい。
●「卒後アドバンストコース」の内容は、科目数もあり、実習時間数も豊富である。現実的に、病院勤務をしながら、すべて履修していくことに困難性が高いと考えられる。
●事業終了後に一定の成果を出すためにも、看護師のキャリア支援のためにも、大学院の中にコースとして位置づけ、特別選抜枠を設けて大学院で教育する仕組みを整えられることが期待される。
●大学院の体制が整えられるのなら、地域（離島・へき地）で勤務する看護職の社会人特別選抜枠を設けると、本島で勤務する病院看護師と地域の看護職との連携の促進効果も期待できる。
●本事業の終了後に離島・へき地等で本当に就業が期待できるのかが懸念される。